

FD NEWS

No.28 2009年10月31日
摂南大学 FD 委員会
〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8
TEL: 072-839-9106
E-mail: kvomu@ofc.setsunan.ac.jp

摂南大学 

教職員研修ワークショップ

全学 FD 委員会 委員長 八木俊策

多くの大学で FD 活動が義務化に対する形だけの対応になりがちな現状のなかで、FD の実質化が重要な課題となっています。去る 8 月に枚方キャンパスで開催された全学レベルの教職員研修ワークショップに参加し、このような研修が FD 実質化のための有効な方法であることを実感することができました。タスクフォースとしてご協力いただいた薬学部教員スタッフ、研修会実施に必要な種々の準備にご尽力いただいた関係各位に感謝いたします。ここでは参加者の一人として、ワークショップの概要と感想を述べさせていただきます。

ワークショップ初日の全体ミーティングにおいて、教育とは「教師が事実であると信じていることを学習者に話し伝えること」ではなく、「学習者の行動（知識・技能・態度）に価値ある変化をもたらすこと」と捉えて、より良いカリキュラムを作り上げていく手法を体得すること、というワークショップの趣旨説明がありました。このことは言葉として理解できても、実行することはそれほど容易なことではないと思います。

学習目標における一般目標と行動目標の関係、行動目標と学習方略の関係についての説明があり、3つの小グループに分かれて討議しました。今回のユニット（授業科目）は「キャリア形成入門」であり、私たちのグループで討議した結果、一般目標は「人生を有意義にする為に、自分の適性を知り、社会で活躍出来る基礎能力を修得する」となり、行動目標は「自分の将来の職業の夢を他人に説明できる」、「社会の動きと仕組みを説明できる」、「新聞を毎日読む」等となりました。学習目標の基本的要素や学習方略における検討項目については、タスクフォースから懇切丁寧なアドバイスをいただきましたが、時間的制約により十分に議論を尽くすことはできませんでした。しかし、ここで得た知識や経験は今後のカリキュラム設計やシラバス作成に活用できると思います。

学習成果の評価における形成的評価と総括的評価について、参加者の間には意見の違いがありました。たとえば小テストを形成的評価とするのか、総括的評価とするのかといった点です。小テストを成績評価（総括的評価）に使わなければ、学生が真面目に感じないという意見。小テストの出来がよければ学生を褒め、間違っていれば添削して再提出させる、といった使い方（形成的評価）をすれば教育効果が上がるという意見。そこまで時間をかける余裕はないという反論。そうしなければ授業改善にならないという反論。理想と現実、建前と本音が入り乱れた議論が繰り広げられ、日頃あまり気にしていなかったことについて、いろいろと考えさせられました。

本学では来年 4 月に新学部・新学科の開設が予定されており、新たな発展に挑戦していかなければなりません。そのためにも、できるだけ多くの教職員の皆様方に、このような研修に参加していただけることを期待しています。

八木先生の巻頭の言葉でもありましたように本学ではじめての教職員が参加する研修会が去る8月4日(火)、5日(水)と2日間にわたり枚方キャンパスで行われました。テーマは『『キャリア形成入門』という授業科目のシラバスを作成する』。下記の通り教員が18名、職員4名、そして薬学部のタスクフォースの先生方が6名、ディレクター2名、事務局3名の総勢33名が参加されました。今回の第28号FDニュースでは、この研修会を取り上げ、参加者の熱く、そして真剣な姿を伝えたいと思います。

参加者名簿と実施要領は次の通りです。非常にハードな2日間であったことがわかりません。

第1回 教職員研修ワークショップ 実施要領

【日時】：平成21年8月4日(火)、5日(水)

【会場】：摂南大学・薬学部・臨床薬学教育研究センター(6号館)

【主催】：摂南大学・教務部、学長室、FD委員会

[ディレクター]

渡部一仁(教務部長)

北村芳孝(学長室長)

[タスクフォース]

荻田喜代一、倉本展行(薬学部・薬理学研究室)

小西元美(薬学部・臨床分析学研究室)

表 雅章(薬学部・薬化学研究室)

河野武幸(薬学部・病態医科学研究室)

曾根知道(薬学部・教育センター)

[事務局]

喜多勤、中井英人、佐多真奈美(教務課)

【参加者】および【担当タスクフォース】

| A グループ | | B グループ | | C グループ | |
|---------------|----------|----------------|-----------|--------------------|------|
| 八木俊策 | 工学部 | 山本啓三 | 工学部 | 柳沢 学 | 工学部 |
| 伊藤 譲 | 工学部 | 一色美博 | 工学部 | 瀬良昌憲 | 工学部 |
| 東 武大 | 工学部 | 片桐 信 | 工学部 | 横田 祥 | 工学部 |
| 糟谷英之 | 法学部 | 太田 義器 | 外国学部 | 牧田 勲 | 法学部 |
| 家口美智子 | 外国学部 | 深川八郎 | 教職教室 | 福田市朗 | 経情学部 |
| 朝日素明 | 教職教室 | 菅波昌広 | 工学部教育センター | 住吉 誠 | 外国学部 |
| 小出修嗣 | 地域連携センター | 大川恵正 | 薬学部事務室 | 川西英樹 | 就職部 |
| 眞船圭太 | 入試部・入試課 | | | | |
| タスクフォース：○河野、表 | | タスクフォース：○荻田、小西 | | タスクフォース： ○曾根、倉本 | |

[日 程]

第1日目：8月4日（火）（10:00 開始）

| | | |
|-------------|---|--|
| 09:20～09:50 | | 参加者受付（6号館1F） |
| 10:00-10:20 | P | <u>開会式</u> |
| 10:20-10:45 | P | <u>オリエンテーション</u> |
| 10:45-10:55 | P | <u>「摂南大学の問題点」KJ法解説</u> |
| 10:55-11:55 | S | SGD |
| 11:55-12:15 | P | 発表（4分/グループ）と合同討議（5分） |
| 12:15-13:15 | S | 写真撮影、昼食 |
| 13:15-13:45 | P | <u>カリキュラムとは・学習目標とは</u> |
| 13:45-15:15 | S | 学習目標の作成（SGD） |
| 15:15-15:40 | P | 学習目標：発表（4分/グループ）と討議（3分/グループ） |
| 15:40-15:55 | | コーヒードリンク（6号館2階エレベーター前） |
| 15:55-16:20 | P | <u>学習方略とは</u> |
| 16:20-17:50 | S | 学習方略の作成 |
| 17:50-18:20 | P | 発表（5分/グループ）と討議（4分/グループ） 、追加説明『望ましい学習』 |
| 18:20-18:25 | P | <u>第1日目の評価</u> |
| 18:30-19:50 | | <u>情報交換会</u> （2号館食堂） |

第2日目：8月5日（水）（10:00 開始）

| | | |
|-------------|---|-----------------------------------|
| 09:20-09:50 | | 参加者受付（6号館1F） |
| 10:00-10:05 | P | <u>第1日目の評価報告</u> |
| 10:05-10:10 | P | <u>ブレ教育評価演習</u> |
| 10:10-10:40 | P | <u>教育評価とは</u> |
| 10:40-12:40 | S | 教育評価法の作成 |
| 12:40-13:40 | S | 昼食 |
| 13:40-14:15 | P | 教育評価：発表（5分/グループ）と討議（4分/グループ）、追加説明 |
| 14:15-14:20 | P | <u>ポスト教育評価演習</u> |
| 14:20-14:30 | P | プロダクト修正（P会場で） |
| 14:30-14:35 | P | <u>教育評価演習結果発表</u> |
| 14:35-14:45 | P | <u>問題点への対応</u> |
| 14:45-15:45 | S | 問題点への対応の作成 |
| 15:45-16:15 | P | 発表（4分/グループ）と合同討議（15分） |
| 16:15-16:25 | P | <u>問題解決のプロセス</u> |
| 16:25-16:35 | P | <u>総合ポストアンケート、第2日目の評価</u> |
| 16:35-16:50 | | コーヒードリンク（6号館2階エレベーター前） |
| 16:50-17:35 | | <u>講演「教育改革」</u> （DVD）（6号館1階・講義室） |
| 17:35-17:45 | | <u>事務局担当者の紹介と謝辞</u> |
| 17:45-18:05 | P | <u>総合プレ・ポストアンケート、第2日目評価報告</u> |
| 18:05-18:20 | P | <u>閉会式</u> |

教員、職員の皆さんに今回の研修会に参加した感想を述べていただきました。3つのグループからそれぞれ1名の方を代表として、人選はFDニュースの編集部にて任意に行いました。なお、匿名の方もいます。

協同作業としての授業カリキュラム作成

経営情報学部 福田 市朗

「キャリア形成入門」という授業科目のシラバスを、7名の教職員によって分刻みにスケジュールされたワークショップを通して作成することが2日間の我々に与えられた課題であった。この作業は、カリキュラム立案に関する一般目標の設定から議論を起し、具体的な行動目標の設定および学習方略の決定に至るまでの厳しい戦いであったと思う。

授業の出発点は科目を担当する教員に置かれるが、そのゴールが学生にあることは忘れられやすい。しかし、「キャリア形成入門」は新入生の学問に対する関心と勉学への動機づけを重視するもので、すべての学生に共通する事柄である。それにもかかわらず、専門領域や職務を異にするメンバー間での議論は多様であり、同じ結論に至ることが難しいと実感した。だが、この作業を通して、カリキュラム作成における相互理解の必要性を肌で感じたことは意義深い。

ところで、今回のワークショップは、薬学部における教員研修の一端を知る良い機会であった。薬学部は外部からの強い要請とともに内部でも多くの葛藤を抱えながら、独自の教育改善を進めている。人文系から見れば、薬学部の教育研究の対象は明確であり、薬物に関する知識の習得を目標とし、学習者の自己変革という人格的課題はとかく付随的なテーマとされやすい。けれども、自己陶冶という内面的な成長は薬学部の教育においても大きな目標である。人を育てるという教育的目標を考えるなら、薬学部でなされている教員研修は人文系の学部教育においても大いに参考となりうる。

2日間のワークショップを通して、授業は教員と学生の協同作業であり、カリキュラムの作成は決して一人の世界において処理できる事柄ではないことを痛感したしだいである。その意味で、参加者のすべてにとって意義のあるワークショップであったと思う。貴重な体験の場を提供していただいた薬学部の先生方にお礼を申し上げたい。



グループ別発表 その1

2009年度教職員研修ワークショップに参加して

工学部 一色 美博

2009年度教職員研修ワークショップに参加し、正に目から鱗が落ちる思いがしました。研修では KJ 法によるブレインストーミング、カリキュラム設計法、問題解決法など盛りだくさんのメニューが用意されていましたが、中でも、学習目標を設定し、学習方略を立案し、教育評価を検討するカリキュラム設計の手法は大変合理的なものと感じました。また、学習目標の設定においては、学習者（学生）が主語となる文章で一般目標 (GIO) および行動目標 (SBOs) を表すことが重要であり、学習方略では、学習者が行動目標に到達するためにどのように学習経験を積ませるかという観点で立案すべきであるなど、授業計画を考える上での多くのヒントを得ることができました。さらに、教育評価については、最終の達成度評価だけでなく、学習の形成過程の改善を目的とする中間的な評価を取り入れるなど、学習者の学習効果を高める工夫も必要であることが理解できました。工学部機械工学科では JABEE (日本技術者教育認定機構) の受審に向け、その準備を進めておりますが、今回の研修は機械工学科の教育改善に大いに役立つと思います。最後に、このような機会を提供いただいた教務部、薬学部の皆様に深甚なる謝意を表します。



グループ別発表 その2

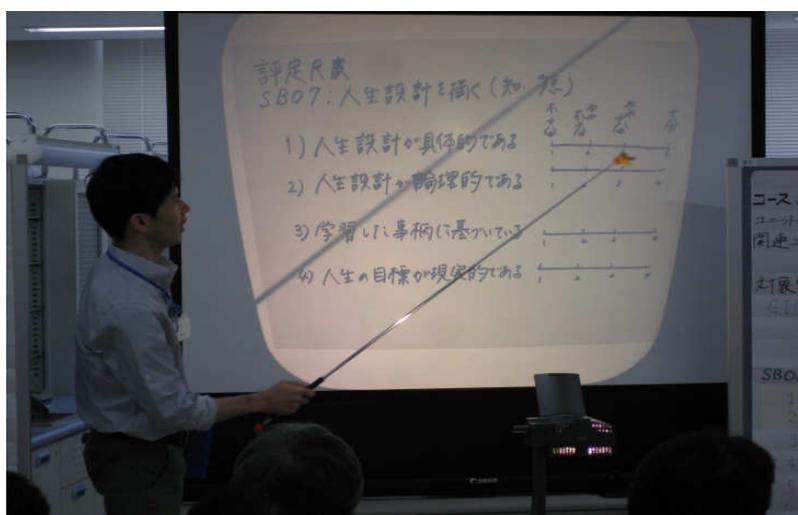
摂南大学教職員 WSに参加して

匿名

この WS に参加して、多くのことを学ぶことができたと思う。WS では「キャリア形成入門」という授業が想定され、そのカリキュラムを作成するという作業を行った。自分の専門ではない分野であったこともあり、最初は気後れするばかりであったが、その作業過程で学習目標、学習方略、教育評価といったそれぞれの項目について理解を深めることができた。また、不慣れな分野であったからこそ、体系的なシラバス構築がいかに重要かを

再認識できたと思う。恥ずかしいことであるが、これまでの自分のカリキュラムやシラバス作成には反省すべき点が多かったことを認めなくてはならない。

実際の作業過程で学ぶことはもちろん多かったが、何よりも有益だったと思うのは、普段キャンパス内でなかなかお話をする機会のない他学部の先生方と知り合い、いろいろとお話をする機会が持てたことである。WSの初日に摂南大学の問題点を討論するというセッションがあったが、その中に「教員の横のつながりが希薄である」という意見が散見された。事実、私も自分の所属している学部の閉じた世界の中に閉じこもっており、学部を越えた教員間の相互交流というのはなかった。今回、2日間という短い時間ではあったが、WSのさまざまな作業を通して、他学部の先生方と意見交換をし、少しでも問題意識を共有する機会が持てたことはよかったと思う。人的交流の大切さを痛感した2日間であった。



グループ別発表 その3

ワークショップに参加して

就 職 部 川 西 英 樹

今回の教職員研修ワークショップに参加して、大学に所属する職員間の交流・相互理解が不足しているのではないかと感じるとともに、これらをクリアすれば、摂南大学はもっと発展するのではないかと感じました。

なぜかと言うと今回の研修ワークショップのディスカッションの中で、入学してくる学生や在学生への対応、主に勉学面での指導や学生の将来のことを考えたキャリア意識の醸成についてなど先生方が日頃から感じていること、考えていることが次々として出てきました。先生方個々に摂大を良くしようという考えを持っているものの、授業や学生に対する個別指導や会議などのため多忙で、先生方の考えを共有し合えるような場が持てていない状況にあるのだと感じたからです。

先生方の中に摂南大学を良くしたいという思いがあると同時に、事務系職員も同じ考え方を持っています。そこで、両者がそれぞれの思いや考えを伝え、話し合う場があれば、摂南大学のさらなる発展があるのではないのでしょうか。

「撰大力」を発揮すべき時を痛感！

地域連携センター 小出 修嗣

今回、初めて開催の教職員研修ワークショップに事務職員として参加の機会を得ました。2日間の学部の枠を越えた教員との小グループ討議によるグループ・セッションや全体討議の実践活動を通じて体得したことは、その手法がカリキュラム作りだけではなく、大学組織や事務組織の運営や業務において活用できるものでした。本WSでの薬学部教員6名のタスクフォースの役割は大変大きく、「褒める」という対応に、学生への「褒める」ということの大切さを痛感しました。また、「聞いたことは忘れる!!」、「見たことは覚えている!!」、「体験したことは理解できる!!」、そして何よりも「学んだことの証は、変わること!!」との提言が忘れられません。WSで紹介のあった診療科の枠を超え総合的医療を実践中の中島宏昭・昭和大学医学部教授は語っています。「目で受け入れ、なんでもおっしゃってくださいという気持ちを伝えることが大事。是非、何か教えてくださいという姿勢でいると皆さんいろいろな意見を出してくれる」と。本学が35周年を迎え大改革が進んでいる中、「学生の視点に立つこと」を忘れず、教職員が一丸となって「撰大力」を発揮すべく、教員と事務職の構成員全員で徹底的に議論し入学した学生一人ひとりを如何に成長させるかが問われていることを痛感した研修会でした。



修了式 その1



修了式 その2

本研修会は息つく暇もないようなハードスケジュールで行われたようです。このWSは、2日間連続して出席することに意義があり、いずれか1日だけの参加は認められてはいません。上記は、修了式の写真ですが、皆さん、晴れやかな、そして達成感溢れる何ともいえない、いい笑顔を見せておられます。それは、この研修会がいかに充実していたか、を物語っているようです。参加者の皆さん、本当にお疲れさまでした。とりわけ、薬学部のタスクフォースの先生方には準備からWS進行、修了に至るまで大変なご負担であったかと思います。ご苦労様でした。

2009 年度前期「学生による授業アンケート」実施結果報告

FD 委員会 (SG1)

I 実施状況

2009 年度の学生による前期授業アンケートは、6 月 22 日 (月) ～7 月 4 日 (土) の 2 週間にわたって実施された。

実施対象は昨年度と同様に、ゼミ・実験・演習および履修者数・回答者数が 10 名以下の科目を除く全授業科目である。アンケートの実施にあたっては、今年度、授業担当教員は原則回収に関与しない方針を明確化したが、学部・学科の判断に応じて、教員ないし学生がアンケートを回収することとした。アンケートの内容については、全体の整合性を考慮して、昨年度実施した項目のうち、

「この授業を受けるにあたり、シラバスをしっかりと読みましたか。」を除いて実施した。

一方、自由記述式の回答欄については、

- 1 この授業の満足できた点：
- 2 この授業の改善すべき点：
- 3 この教室（ 教室）の設備などの改善すべき点：
- 4 その他の感想：

の 4 項目の質問が設けられた。

なお、集計結果の取り扱いに関しては、昨年度と同様に、①各授業担当教員への結果報告、②各学部・学科への結果報告、③摂南大学内の掲示による公開、④摂南大学ホームページ上の学内公開（公開希望科目のみ）を行う。

II アンケート結果の概要

9 項目にわたる質問について、質問ごとにその特色を示す。

(1) 質問 1：「この授業にどの程度出席しましたか。」

表 1 出席状況

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 100% | 1,881 | 1,548 | 1,311 | 2,068 | 982 | 3,659 | 3,343 | 6,233 | 2,576 | 23,601 |
| 80～100%未満 | 682 | 662 | 532 | 688 | 615 | 2,560 | 2,038 | 1,280 | 1,431 | 10,488 |
| 60～80%未満 | 105 | 188 | 150 | 198 | 187 | 653 | 547 | 260 | 489 | 2,777 |
| 40～60%未満 | 9 | 41 | 11 | 13 | 27 | 97 | 97 | 48 | 101 | 444 |
| 40%未満 | 14 | 27 | 14 | 30 | 10 | 30 | 46 | 34 | 64 | 269 |
| 平均 | 4.64 | 4.49 | 4.54 | 4.59 | 4.39 | 4.39 | 4.41 | 4.74 | 4.36 | 4.51 |

100%出席したと回答した学生が圧倒的に多く（全体の 62.8%）、次いで 80～100%出席した学生が多い（全体の 27.9%）。したがって、アンケートに回答した 90%以上の学生が授業回数の 8 割以上を出席していることになる。アンケートの実施日が講義回数の 10 回～11 回目にあたるため、出席率の良い学生が定着していた結果であると思われる。なお、C 科と Y 部では 95%以上の学生が 80%以上の出席をしていたのに対して、J 部では 86%であり、他の人文社会科学系学部も同様の傾向を示している。これは各学部・学科の特質を反映しているものと見られる。

(2) 質問 2 : 「この授業に意欲的に取り組みましたか。」

表 2 取り組み状況

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 940 | 712 | 421 | 656 | 471 | 2,481 | 1,783 | 2,175 | 1,193 | 10,832 |
| そう思う | 1,085 | 988 | 820 | 1,256 | 754 | 2,852 | 2,585 | 3,193 | 1,789 | 15,322 |
| どちらともいえない | 523 | 566 | 619 | 844 | 450 | 1,273 | 1,175 | 1,820 | 1,247 | 8,517 |
| あまりそう思わない | 91 | 133 | 124 | 181 | 100 | 266 | 379 | 456 | 301 | 2,031 |
| 全くそう思わない | 45 | 62 | 34 | 58 | 40 | 108 | 133 | 196 | 126 | 802 |
| 平均 | 4.04 | 3.88 | 3.73 | 3.76 | 3.84 | 4.05 | 3.91 | 3.85 | 3.78 | 3.89 |

全学部・学科の平均値は、3.89 で、「4.そう思う」と「5.強くそう思う」の割合が高い。なかでも C 科と L 部はともに平均値が 4 を越えている。昨年度の各学部・学科ごとの回答と比較すると、ほぼ同様の傾向がみられる。

質問 1 によると 80%以上出席したと回答した学生が 90%強であったのに比して、質問 2 で「そう思う」および「強くそう思う」と回答した学生は 70%弱に留まっている。両者の間にあまり強い相関関係はみられないことは、質問 1 と質問 2 の間の Pearson の相関係数が 0.35 であることから裏付けられる。

(3) 質問 3 : 「この授業の復習をしましたか。」

表 3 授業の復習

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 大変よくした | 421 | 290 | 151 | 192 | 218 | 975 | 765 | 750 | 423 | 4,185 |
| よくした | 690 | 506 | 343 | 380 | 348 | 1,326 | 1,111 | 1,140 | 684 | 6,528 |
| 時々した | 975 | 942 | 826 | 964 | 637 | 2,281 | 1,795 | 2,767 | 1,432 | 12,619 |
| あまりしなかった | 356 | 427 | 439 | 725 | 322 | 1,206 | 1,238 | 1,657 | 906 | 7,276 |
| まったくしなかった | 243 | 292 | 256 | 734 | 293 | 1,191 | 1,148 | 1,525 | 1,202 | 6,884 |
| 平均 | 3.26 | 3.03 | 2.85 | 2.52 | 2.93 | 2.96 | 2.85 | 2.74 | 2.62 | 2.84 |

この質問に関しては、全学部・学科の平均値は、2.84 ときわめて低い値を示しており、授業を復習することに関して消極的な傾向がみてとれるが、昨年(2.72)よりは良好な結果を示している。上記質問 2 と対比してみると、授業に意欲的に取り組んでいる学生が相対的に多い C 科では復習も相対的によく行っている傾向がみてとれる。一方、質問 2 では比較的高かった L 部では、復習の度合いに関してはそれほど高い回答数値を示していない。これは学部・学科間の特徴を反映したものではないかと推察される。なお、質問 2 と質問 3 の間の Pearson の相関係数は 0.46 で、ある程度の相関関係が見て取れる。

(4) 質問 4 : 「この授業の到達目標を達成できましたか。」

表 4 到達目標

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 500 | 340 | 197 | 286 | 256 | 1,523 | 1,032 | 1,080 | 677 | 5,891 |
| そう思う | 913 | 719 | 513 | 859 | 552 | 2,374 | 2,028 | 1,997 | 1,339 | 11,294 |
| どちらともいえない | 1,041 | 1,106 | 991 | 1,442 | 821 | 2,478 | 2,181 | 3,895 | 2,061 | 16,016 |
| あまりそう思わない | 144 | 184 | 221 | 293 | 120 | 398 | 561 | 620 | 369 | 2,910 |
| 全くそう思わない | 82 | 102 | 90 | 110 | 65 | 200 | 242 | 235 | 202 | 1,328 |
| 平均 | 3.60 | 3.41 | 3.25 | 3.31 | 3.45 | 3.66 | 3.50 | 3.39 | 3.41 | 3.47 |

全学部・学科の平均値は 3.47 で、昨年(3.36)よりは高い数値を示している。次の質問とも関連すると思われるが、各教員が第 1 回目の講義や各講義時間の冒頭で授業の到達目標を説明することが徹底されるようになってきたからではなかろうか。ただ、「どちらともいえない」との回答が最大で、やや上方に偏りはあるものの正規分布に近い傾向が見られる。また、学部・学科間の差異もあまり見られない。昨年度から加えられた項目であるが、学生にとってやや回答しにくい質問なのかもしれない。

(5) 質問 5 : 「この授業はシラバス等の内容に沿って行われましたか。」

表 5 シラバスの内容

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 643 | 415 | 287 | 394 | 346 | 2,234 | 1,538 | 1,439 | 935 | 8,231 |
| そう思う | 1,008 | 867 | 780 | 1,001 | 666 | 2,431 | 2,369 | 2,569 | 1,757 | 13,448 |
| どちらともいえない | 882 | 1,023 | 800 | 1,355 | 697 | 2,075 | 1,847 | 3,476 | 1,666 | 13,821 |
| あまりそう思わない | 79 | 85 | 92 | 156 | 75 | 140 | 197 | 217 | 163 | 1,204 |
| 全くそう思わない | 73 | 69 | 54 | 89 | 35 | 102 | 111 | 129 | 134 | 796 |
| 平均 | 3.77 | 3.60 | 3.57 | 3.49 | 3.67 | 3.94 | 3.83 | 3.63 | 3.69 | 3.72 |

全学部・学科の平均値は 3.72 で、全学部・学科とも平均値に大きなばらつきはない。依然としてシラバスをしっかりと読んでおらず、シラバスの内容どおりに授業が進んだかどうか、相当数の学生は判断がつかなかったものと思われる。しかし、昨年度(3.59)よりは上向きに推移しており、若干ではあるがシラバスに対する意識が高まっているものと考えられる。

ところで、シラバスの提出は前年度の 10 月である。あまりにシラバスにこだわると、学部・学科あるいは授業の特質によっては、その後の内容変更や授業の流れに即した話題の提供などができず、柔軟性のない型どおりの授業となってしまう可能性がある。その結果、臨機応変な生きた授業の実施が阻害され、かえって学生にとって魅力のない授業になってしまうことが懸念される。

(6) 質問 6 : 「この授業の担当教員から授業に対する熱意を感じましたか。」

表 6 教員の熱意

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 708 | 615 | 402 | 552 | 489 | 3,164 | 1,970 | 2,268 | 1,315 | 11,483 |
| そう思う | 1,049 | 966 | 823 | 1,201 | 758 | 2,421 | 2,480 | 3,164 | 1,877 | 14,739 |
| どちらともいえない | 684 | 657 | 547 | 943 | 441 | 1,051 | 1,093 | 1,867 | 1,040 | 8,323 |
| あまりそう思わない | 116 | 116 | 140 | 182 | 75 | 202 | 319 | 364 | 251 | 1,765 |
| 全くそう思わない | 130 | 109 | 104 | 120 | 55 | 154 | 204 | 184 | 172 | 1,232 |
| 平均 | 3.78 | 3.76 | 3.63 | 3.63 | 3.85 | 4.18 | 3.94 | 3.89 | 3.84 | 3.89 |

全学部・学科の平均値は 3.89 で昨年度(3.85)からほとんど変化していない。具体的には、「4.そう思う」および「5.強くそう思う」を選択した学生が多い。

昨年度の各学部・学科ごとの回答と比較しても、ほぼ同様の傾向がみられる。なかでも、L 部の平均値は 4.18 となっており、他に比べて突出しているとともに、唯一「強くそう思う」が「そう思う」の数値を上回っていることが特筆される。

(7) 質問 7 : 「この授業の担当教員は、授業内容を理解させるための工夫をしていましたか。」

か。」

表 7 理解させる工夫

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 649 | 567 | 371 | 489 | 466 | 2,903 | 1,704 | 2,012 | 1,193 | 10,354 |
| そう思う | 976 | 904 | 763 | 1,092 | 660 | 2,362 | 2,338 | 2,926 | 1,708 | 13,729 |
| どちらともいえない | 690 | 684 | 574 | 974 | 506 | 1,220 | 1,286 | 2,066 | 1,213 | 9,213 |
| あまりそう思わない | 188 | 169 | 163 | 274 | 100 | 279 | 447 | 541 | 330 | 2,491 |
| 全くそう思わない | 185 | 139 | 146 | 168 | 86 | 230 | 286 | 295 | 215 | 1,750 |
| 平均 | 3.64 | 3.65 | 3.52 | 3.49 | 3.73 | 4.06 | 3.78 | 3.74 | 3.72 | 3.76 |

全学部・学科の平均値は、3.76 である。この質問についても、L 部の平均値のみは 4 を上回っているとともに、唯一「強くそう思う」が「そう思う」の数値を上回っている。昨年度の各学部・学科ごとの回答と比較しても、ほぼ同様の傾向がみられる。

(8) 質問 8 : 「この授業の担当教員の話し方は、明瞭でわかりやすかったですか。」

表 8 教員の話し方

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 622 | 524 | 358 | 473 | 446 | 2,862 | 1,679 | 1,993 | 1,192 | 10,149 |
| そう思う | 939 | 887 | 699 | 967 | 648 | 2,321 | 2,213 | 2,633 | 1,648 | 12,955 |
| どちらともいえない | 702 | 663 | 616 | 997 | 507 | 1,192 | 1,282 | 2,098 | 1,181 | 9,238 |
| あまりそう思わない | 203 | 209 | 174 | 347 | 117 | 335 | 513 | 709 | 374 | 2,981 |
| 全くそう思わない | 221 | 176 | 167 | 211 | 100 | 287 | 375 | 410 | 260 | 2,207 |
| 平均 | 3.57 | 3.56 | 3.45 | 3.38 | 3.67 | 4.02 | 3.71 | 3.65 | 3.67 | 3.69 |

全学部・学科の平均値は 3.69 であるが、この質問に関しても、L 部の平均値は 4 を越えているとともに、唯一「強くそう思う」が「そう思う」の数値を上回っている。昨年度の各学部・学科ごとの回答と比較しても、ほぼ同様の傾向がみられる。

(9) 質問 9 : 「総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか。」

表 9 総合満足度

| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | 計 |
|-----------|------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 強くそう思う | 666 | 611 | 397 | 532 | 455 | 3,008 | 1,777 | 2,120 | 1,229 | 10,795 |
| そう思う | 889 | 866 | 704 | 1,021 | 614 | 2,180 | 2,240 | 2,707 | 1,600 | 12,821 |
| どちらともいえない | 786 | 709 | 630 | 1,019 | 572 | 1,241 | 1,323 | 2,010 | 1,286 | 9,576 |
| あまりそう思わない | 183 | 143 | 149 | 260 | 85 | 306 | 420 | 497 | 292 | 2,335 |
| 全くそう思わない | 155 | 130 | 135 | 160 | 89 | 259 | 301 | 285 | 237 | 1,751 |
| 平均 | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

全学部・学科の平均値は、3.77 であり、L 部を除く他の学部・学科に大きなばらつきはない。この質問でも L 部の平均値は 4.05 であり、突出した結果となっている。昨年度の各学部・学科ごとの回答と比較しても、ほぼ同様の傾向がみられる。

以上質問 6 から 9 までの回答結果は、ほぼ一致した傾向を示しており、おそらく一過性の傾向ではなく、大いに注目に値するものである。L 部の授業の多くは外国語科目で、発音や会話・朗読など声を出す等学生が参加する型の授業が多いこと、少人数教育であることなどの理由が推測されるが、今後より一層の検証作業が必要ではなからうか。

2002年度以来の「総合満足度」の経年変化をみると（図1）、前期・後期とも概して右肩上がりとなっており、満足度が高まっていることが推測される。図中、後期の総合満足度が一貫して前期のそれを上回っている理由は不明であるが、両曲線は一定の水準（およそ3.8）に収斂しつつある。このことからすると、本学のFD活動が授業内容の改善に何らかの効果をもたらしてきたとともに、定着期に到達しつつあるようにみえる。

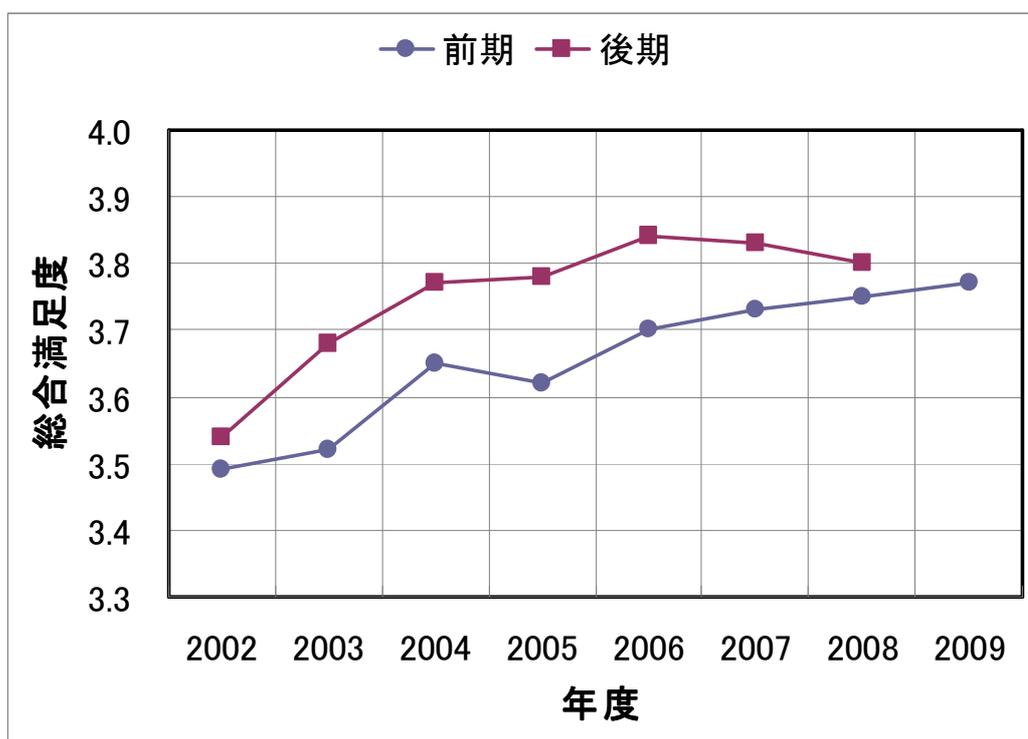


図1 総合満足度の経年変化

Ⅲ アンケート結果の分析

学生の「総合満足度（質問9）」と、それをもたらした諸要因について、次の(1)～(7)の項目に分けて分析する。

(1) 受講者数と満足度

表 10 受講者数と満足度

| | 学部・学科 | | | | | | | | | 計 |
|---------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | |
| | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | |
| | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 |
| 受講者 | 4.60 | 4.44 | 0.00 | 4.40 | 0.00 | 4.26 | 4.03 | 0.00 | 3.97 | 4.20 |
| -19 | | | | | | | | | | |
| 20-39 | 3.67 | 3.78 | 3.63 | 3.71 | 3.76 | 4.15 | 3.84 | 3.68 | 3.89 | 3.89 |
| 40-59 | 3.70 | 3.81 | 3.38 | 3.42 | 3.65 | 3.90 | 4.01 | 3.70 | 3.97 | 3.75 |
| 60-79 | 3.54 | 3.30 | 3.62 | 3.39 | 3.71 | 3.97 | 3.81 | 3.74 | 3.92 | 3.72 |
| 80-99 | 3.66 | 4.05 | 3.44 | 3.72 | 3.85 | 3.96 | 3.75 | 3.97 | 3.71 | 3.77 |
| 100-119 | 3.47 | 3.93 | 3.71 | 3.50 | 2.22 | 3.51 | 3.84 | 3.60 | 3.69 | 3.64 |
| 120-139 | 0.00 | 3.39 | 3.45 | 3.29 | 0.00 | 3.50 | 3.66 | 3.83 | 3.67 | 3.63 |
| 140-159 | 0.00 | 3.51 | 0.00 | 3.66 | 0.00 | 3.91 | 3.20 | 4.23 | 3.44 | 3.72 |
| 160-179 | 0.00 | 2.86 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 3.79 | 2.97 | 3.74 | 3.41 | 3.59 |
| 180-199 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 3.58 | 0.00 | 3.76 | 3.32 | 3.68 |
| 200- | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 4.42 | 2.94 | 3.64 | 3.72 | 3.80 |
| 計 | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

全体の傾向としては、全学部・学科の平均値が、3.77 であるのに対して、受講者数 20 人以下のクラスでは 4.20、20-40 人のクラスでは 3.89 と平均値が高めになっている。一方、受講者数が 40 人を越えると 200 人以上のクラスに至まで、平均値に大きなばらつきはない。昨年度もほぼ同様の傾向を示しており、学生にとって 40 人以下の少人数クラスの満足度が高いようにみえる。しかし一方で、各学部・学科ごとの数値を見ると、若干のばらつきがみられる。これは学部や学科あるいは教科の特質を反映しているのではないかと推察される。

(2) 教員年齢と満足度

表 11 教員年齢と満足度

| | 学部・学科 | | | | | | | | | 計 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | |
| | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | |
| | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 |
| 年齢 | 3.79 | 2.92 | 3.33 | 3.12 | 3.36 | 4.01 | 3.96 | 0.00 | 3.74 | 3.72 |
| -29 | | | | | | | | | | |
| 30-34 | 3.85 | 3.88 | 4.00 | 3.48 | 3.61 | 4.25 | 4.02 | 4.07 | 3.87 | 3.98 |
| 35-39 | 3.90 | 3.67 | 3.73 | 3.64 | 4.04 | 4.27 | 3.94 | 3.51 | 3.88 | 3.90 |
| 40-44 | 3.81 | 3.94 | 3.62 | 3.31 | 3.45 | 4.00 | 3.80 | 3.71 | 3.88 | 3.82 |
| 45-49 | 3.72 | 4.31 | 3.68 | 3.53 | 3.43 | 4.15 | 3.68 | 3.68 | 3.79 | 3.81 |
| 50-54 | 3.58 | 3.78 | 3.36 | 3.60 | 3.99 | 3.97 | 3.76 | 3.78 | 3.53 | 3.76 |
| 55-59 | 3.30 | 3.98 | 3.20 | 3.62 | 3.68 | 3.80 | 3.75 | 3.90 | 3.30 | 3.69 |
| 60-64 | 3.54 | 3.75 | 3.44 | 3.16 | 3.58 | 3.97 | 3.59 | 3.70 | 3.57 | 3.63 |
| 65-69 | 3.05 | 2.76 | 3.37 | 3.27 | 3.68 | 3.49 | 3.30 | 0.00 | 3.10 | 3.21 |
| 70- | 3.95 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.05 | 4.23 | 4.25 | 3.88 | 3.89 | 4.03 |
| 計 | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

昨年度の調査結果では、全般に比較的學生と年齢の近いつまり若い教員に対する満足度が高いとの傾向があったが、今年度は必ずしもそういった傾向は明確には見られない。しかも、各学部・学科の年齢階層によっては該当する教員が数人である場合もあることから、母集団の数が少ないために統計的な誤差が生じる可能性があることにも注意しておかなくてはならない。

(3) 職階と満足度

表 12 職階と満足度

| | | 学部・学科 | | | | | | | | | 計 |
|-----|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | |
| | | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | |
| | | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | |
| 区分 | 職階 | 3.59 | 3.60 | 3.30 | 3.48 | 3.80 | 3.72 | 3.57 | 3.95 | 3.36 | 3.65 |
| 専任 | 教授 | | | | | | | | | | |
| | 准教授 | 3.08 | 3.88 | 3.87 | 3.59 | 3.82 | 4.15 | 3.98 | 3.70 | 3.74 | 3.86 |
| | 講師 | 3.69 | 3.31 | 3.90 | 3.34 | 3.37 | 4.17 | 3.67 | 3.71 | 3.92 | 3.83 |
| | 計 | 3.65 | 3.65 | 3.55 | 3.48 | 3.75 | 3.99 | 3.72 | 3.82 | 3.66 | 3.74 |
| 非常勤 | 職階 | 3.64 | 3.74 | 3.53 | 3.55 | 3.58 | 4.13 | 3.85 | 3.66 | 3.80 | 3.80 |
| | 講師 | | | | | | | | | | |
| | 計 | 3.64 | 3.74 | 3.53 | 3.55 | 3.58 | 4.13 | 3.85 | 3.66 | 3.80 | 3.80 |
| 計 | | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

昨年度の調査結果では、教授に比べて専任講師と専任准教授の満足度が高かった。今年度もほぼ同様の結果がみられる。なお、上表の専任講師には一部助教を含んでいる。

(4) 授業時限と満足度

表 13 授業時限と満足度

| | | 学部・学科 | | | | | | | | | 計 |
|----|--|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | |
| | | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | |
| | | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | |
| 時限 | | 3.72 | 4.02 | 3.70 | 3.74 | 3.61 | 4.07 | 3.73 | 3.81 | 3.78 | 3.83 |
| 1 | | | | | | | | | | | |
| 2 | | 3.74 | 3.58 | 3.55 | 3.44 | 3.69 | 4.08 | 3.81 | 3.76 | 3.71 | 3.76 |
| 3 | | 3.60 | 3.58 | 3.47 | 3.49 | 3.56 | 4.07 | 3.83 | 3.64 | 3.66 | 3.73 |
| 4 | | 3.49 | 3.57 | 3.52 | 3.56 | 3.81 | 4.03 | 3.73 | 3.82 | 3.76 | 3.75 |
| 5 | | 3.67 | 4.16 | 3.41 | 3.50 | 3.99 | 3.68 | 4.06 | 0.00 | 3.58 | 3.78 |
| 計 | | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

全学部・学科の平均値は、3.77 で、各時限における満足度のばらつきはほとんどなかった。この傾向は昨年度とほとんど変わっていない。本表にしたがえば、カリキュラムの時限よりも、授業内容そのものが満足度につながっているものと読み取ることができるが、

カリキュラム作成側の配慮も見逃すことができない。こうしたことを含めた分析と解釈が必要かもしれない。

(5) 選択・必修科目と満足度

表 14 選択・必修科目と満足度

| | 学部・学科 | | | | | | | | | 計 |
|----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | |
| | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | |
| | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | |
| 履区 | 3.62 | 3.76 | 3.58 | 3.50 | 3.69 | 4.06 | 3.82 | 3.81 | 3.70 | 3.80 |
| 選択 | | | | | | | | | | |
| 必修 | 3.74 | 3.54 | 3.31 | 3.51 | 3.81 | 3.39 | 3.62 | 3.14 | 3.77 | 3.56 |
| 計 | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

昨年度の結果によると、選択と必修科目の間に大きな差は見られなかったが、今年度の調査によると若干差が開いており、選択に対する満足度が高くなっている。ただし、学部・学科間のばらつきが大きいところをみると、選択と必修以外の要因が作用しているように見える。特にL部とY部ではこの差が顕著である。

(6) 分野別教科と満足度

表 15 分野別教科と満足度

| | 学部・学科 | | | | | | | | | 計 |
|----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | C | A | E | M | B | L | I | Y | J | |
| | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | A9 | |
| | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | 平均 | |
| 分類 | 3.58 | 3.68 | 3.46 | 3.50 | 3.76 | 4.05 | 3.76 | 3.83 | 3.65 | 3.78 |
| 専門 | | | | | | | | | | |
| 専門 | 3.85 | 3.42 | 3.48 | 3.28 | 3.46 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 3.49 |
| 基礎 | 3.62 | 3.76 | 3.59 | 3.58 | 3.58 | 0.00 | 3.97 | 3.86 | 0.00 | 3.73 |
| 教養 | 3.83 | 4.11 | 3.88 | 3.86 | 3.83 | 4.15 | 3.82 | 3.34 | 3.83 | 3.79 |
| 教職 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 3.66 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 3.66 |
| 計 | 3.65 | 3.69 | 3.54 | 3.50 | 3.69 | 4.05 | 3.79 | 3.77 | 3.71 | 3.77 |

各教科を「専門」、「専門関連（専門、工学部のみ）」、「基礎」、「教養」、「教職」の5分野に分けて分析した。「専門関連」の満足度が若干低いものの、他の教科については大きなばらつきはなかった。この傾向は昨年度と変わっていない。

(7) 質問項目と満足度との相関

各質問の間の関係を分析するために、Pearsonの相関係数を求めている。ここでは主として総合満足度と各個別質問の間の関係に焦点をあてて考察する。第1に、「出席率（質問1）」とはほとんど相関がない(0.15)。第2に、「復習頻度（質問3）」については若干の相関が見られる(0.37)。第3に、「取り組み状況（質問2）」、「到達目標の達成状況（質問4）」および「シラバスの内容（質問5）」は、それぞれ0.57、0.61、および0.61であって、あ

る程度の相関が見られた。最後に、「教員の熱意（質問 6）」、「理解させる工夫（質問 7）」および「教員の話し方（質問 8）」は、それぞれ 0.74、0.79、および 0.81 であって、かなり高い相関が見て取れた。

したがって、十分に予想されることであるが、「教員の熱意(質問 6)」、「理解させる工夫(質問 7)」、および「教員の話し方(質問 8)」間の相関係数はかなり高く、結果としてこれらの項目の数値が高い科目では、総合満足度が高くなっている。

なお、すでに各質問項目に関わる考察で指摘したところであるが、必ずしも総合的ないし集合的(aggregate)な評価になじまない事項がある。その場合、各学部・学科そしておそらくは各教科の特質を理解したうえでのアンケート結果の解釈が求められるのであって、この点に留意しておく必要がある。

IV むすび

2009 年度前期に実施した授業アンケートを分析することにより、次のような結果が得られた。

- (1) 学生評価の平均値がきわめて高いのは「自分の出席状況」で 4.51 となっている。しかし、学部・学科間で差異が見られる。
- (2) 学生評価の平均値が低かったのは、「復習をしたか」で 2.84 となっている。しかし、前記(1)と同様に学部・学科間で差異が見られる。
- (3) 全般的な傾向としては、受講者数が 40 人以下の少人数クラスの満足度が高いことがわかる。しかし、本項目についても各学部・学科間でばらつきがある。
- (4) 教員の年齢と満足度との間の相関は必ずしも明確には認められない。一方、職階と満足度との関係では、教授に比べて専任講師と専任准教授の満足度が高い。
- (5) 授業の開講時限、分野別教科と満足度との間には特に際立った相関は認められない。一方、選択・必修科目と授業満足度の間には若干の差異が見られる。
- (6) 全体の集計結果によると、「教員の熱意」、「理解させる工夫」、「教員の話し方」および「満足度」との間には相当程度の相関関係が見られる。

最後に、本調査結果に基づいて次の 3 点について指摘しておきたい。第 1 は、2002 年度に学生による授業評価が実施されて以来、FD 活動が授業内容の改善に一定の効果をもたらしてきたとともに、定着期に到達しつつあるようにみえることである。第 2 は、満足度の指標は各学部・学科そしておそらく教科に依存するところが大きいことである。したがって、全学一律的な対応のみならず各学部・学科および教科ごとの評価と対応が望まれる。第 3 は、教員の熱意、理解させる工夫、教員の話し方および授業満足度との間に相当程度の相関が見られることである。特に、L 部は他の学部・学科と比較していずれも良好な結果を記録している。その理由が、L 部の開講科目に内在する特殊要因によるものなのか、あるいはその他のより普遍的な要因によるものなのかを確証したうえで、他学部・学科でも生かせないかどうか検討することが望まれる。

【編集後記】

今回の FD ニュースは、本学で初めて実施されました教員研修 WS を特集しました。本特集は、紙幅の関係もあり、後日、報告書も作成されるとの事ですので超ダイジェスト版（又は速報版）といったところでしょうか。何はともわれ、本学の FD 活動に新たな 1 ページが加わりました。